スローガンにおける比喩表現とそれを背景にした新しい掛けことば現象の考察——中国大学入試に関するスローガンを対象に

徐佳
愛知大学大学院 中国研究科
jokaxujia@hotmail.com

概要

日常言語生活によく使われる比喩技法は、物事を興味深く、生き生きとした表現で表すことが出来る。本稿は、スローガンにおける比喩表現を対象に、具体例を挙げながら、比喩の効果とそれを背景にした言葉現象を考察する。そして、大学入試のスローガンにおける発音の関連性や意味の類似性から生まれた掛けことばは、どのような社会現象を生み出したかに関しても、実例に基づき分析する。

1 はじめに

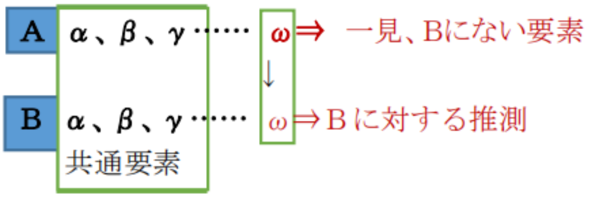
ある物事を、類似または関係する他の物事を借りて表現する比喩は、聞き手に新しい概念を理解させ、情報を円滑に伝達するための修辞技法として、有効な方法の一つである。比喩の効果は、多くの研究者によって指摘されてきた。主な観点をまとめると、言葉遊びの一種として、人間の好奇心、求知心にこたえることができ、そして、難解なものを分かりやすく伝え斬新な言葉を生み出し、物事を生き生きとした表現で表すことができるなどが挙げられる。本稿では、比喩を用いた大学入試に関するスローガンを対象に比喩表現を対象に見ていく。

中国では、例年、全国で 3 日間に渡る大学入試があり、これを「普通高等学校招生全国统一考试（以下、高考）」と呼び、受験者は 15 年の教育を経て受験する。全国の高校三年生が同じ日程で統一された試験に臨むため、非常に競争が激しい試験である。受験学年の教室では、受験生を励ますため、黒板の上の壁に、スローガンを掲げる教室が多い。例を挙げると、“提高一分，干掉千人”（訳：1 点多く取れば千人を抜かすことになる）や、“欲戴皇冠，必承其重”（訳：王冠が欲しければ、重みに耐えなければならない）などがよく見られる。その中でも、“欲戴皇冠，必承其重”のような、比喩を用いた興味深いスローガンも少なくない。

こういった比喩を用いたスローガンは、いずれも何らかの意味変換によって受験勉強を励ます働きを実現するという共通の特徴を持っている。本稿では、中国の大学入試に関するスローガンの中に、どのような比喩表現が使用されたか、具体的に分析しながら、比喩がコミュニケーションにもたらす効果を考察する。そして、中国の大学入試期間に見られた保護者と受験生の取った縁起のよい行動について、掛けことばの観点から分析し、そのような掛け言葉の形成される理由や背後にある認知的動機づけについて考察する。

2 比喩における二方向性について

比喩の一般的形式「Aは、Bである」のAは、たとえられるものであり、Bはたとえるものである。すなわち、Aを、類似または関係するBを借りて表現する。認知心理学において、比喩では情緒・感覚的類似性、カテゴリ的類似性、特徴語との共起関係の強さが重要とされている。その関係は以下の図で表すことが出来る。



上記の図を見ると、AとBの特徴として、共通する要素が、α、βなど…とあり類似しているため、Bにも特徴として、要素ωがあるはずだと推論している。さらに、比喩の方向としては、

(1)抽象的・難解なものを具体的・身近なものに喩える。
例:人生は旅だ。
(2)時に具体的・身近なものを抽象的・難解なものに喩える。
例:母がかけてくれたあの言葉は私にとって、「成功への扉」となった。

This work is licensed by the author(s) under CC BY 4.0
(https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/).

3 類似性の法則について

人間は自分と似ている人に親近感を抱き、心を許す傾向がある。初対面の人でも出身地が同じであったり、共通の趣味を持っていたりするとすぐに打ち解けることが多い。心理学では、「ミラーリング効果」という概念があり、相手を模倣することにより、親近感を持たせたり好感を抱かせる心理テクニックである。これは、「類似性の法則」というものが深く関係している。人間が自分と似た人、または似たものに対して好感を抱きやすい心理がある。これらの概念は言語学に反映され、掛けことばの形成される理由やその背後にある認知的動機づけに対する理解に役立つ。次に、中国の大学入試スローガンと大学入試を背景にしたミラーリングと類似性の視点から具体例を挙げながら考察していく。

4 中国の大学入試に関わるスローガンの実例分析

似ているような発音、または関連性のある意味合いによって生まれた掛けことばは、聞き手に親近感と安心感を与え、より強い印象を残す。たとえば、次の例を見ていただきたい。

（1）勤是甘泉水，学似聚宝盆

訳：勤勉さは甘い泉であり、学ぶことは宝物を盛った盆である。

（2）时间抓起来就是黄金，抓不起来就是流水

訳：時間は掴めば黄金になるが、掴めなければ、流れてゆく水である。

（3）不经风雨，怎见彩虹？

訳：暴風雨を乗り越えなければ、虹に出会うこともない。

（4）欲达高峰，必忍其痛

訳：高峰に達したければ痛みに耐えなければならない。

（5）读书不觉已春深，一寸光阴一寸金

読書して、春らしくなったことも気づかない。時は金である。

（6）宝剑锋从磨砺出，梅花香自苦寒来

宝剣の鋭さは磨いてから出てくる。梅の花の香りは、厳しい寒さに耐えながら出てくるのだ。

（7）书山有路勤为径

本の山を登るには勤勉という道がある。

（8）会当凌绝顶，一览众山小

一番高い山の頂上に登れば、他の山が小さく見える。

（9）今朝勤学苦，明日跃龙门

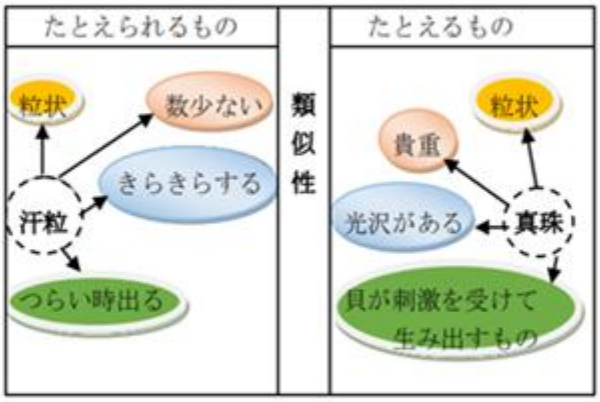
勉学に励むのは苦しいが、将来は（鯉の滝登りのように）竜門を登ることができる。

（１０）把汗水变成珍珠

訳：汗粒をパール真珠にかえるのだ。

大学入試のつらさを乗り越えるためのスローガンは、励ましの言葉でもあるが緊張する受験勉強の中での遊び心の表れでもある。すなわち、これらのスローガンは比喩に潜む「謎」を解き明かす快感が味わえ、人間の好奇心、求知心にこたえることができ、そして、やわらかいイメージで受験勉強の緊張感を和らぐ働きがある。

努力、時間、成功、汗粒などを甘い泉、虹、高い山、真珠などに喩えている。泉、虹、山、真珠などの具体像で、受験の成功に対する祈りという抽象的な概念を比喩で具体化して表している。前者が後者に、意味の関連性の面で類似していると捕らえ、前者を後者に喩えている。汗粒を真珠にたとえる例を、類似性の観点から分析すると、両者の関係と比喩が成り立つ要素を以下の図で表すことが出来る。



汗粒と真珠は両方と粒状であり、そして、数少ない（貴重）、きらきらする（光沢がある、）つらい時に出る（刺激を受ける）という共通する要素がある。こういった類似性に注目することで、「「汗粒をパール真珠にかえるのだ」に対する理解を助ける効果がある。

「暴風雨を乗り越えなければ、虹に出会うこともない」の例に表されているような、類似性に基づく意味の拡張である比喩であると考えられる。それはつらい受験勉強を「暴風雨」に喩えている点が比喩であり、また試験に受かったことを虹に出会えたことに喩えている点でも比喩である。つまり、受験勉強のつらさと受かったときの達成感に焦点を当てて認知し、「暴風雨」と「虹」に喩えている。したが

This work is licensed by the author(s) under CC BY 4.0
(https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/).

って、聞く者に強いエンパシーを感じさせ、比喩との相乗効果が出ている。受験勉強といえば、つらさを真っ先に想起するため、「つらさ」という参照点を表示するだけでターゲットである「暴風雨」にアクセスすることが可能になるのである。

例（４）は、「高い成績」を参照点にして、ターゲットである「高い山」を表現している。

このスローガンは受験勉強の苦しみと受かったときの達成感を詩的な表現で豊かに表した。受験勉強の苦しみと暴風雨に打たれるつらさは、共通性のある概念で、共感を喚起しやすくエンパシーの程度が高いスローガンになっている。

5 大学入試期間に保護者らが取った興味深い行動についての分析

受験生の豪快なスローガンに合わせ、保護者たちも精一杯の努力で受験生を応援している。日本と異なり、中国の両親のほとんどは大学入試の子供を試験会場まで送り迎えする。毎年、新聞のトップページに出るほど大学受験生への応援が盛大である。たとえば、受験現場の外で縁起を担ぐために、結婚式のときぐらいしかチャイナドレスを着ないない受験生の母親らが、鮮やかな姿で注目を集める。これは、チャイナドレスが礼服であるだけではなく、その背後にある掛けことばが潜んでいるためである。掛けことばは、発音の類似性を使って1つの言葉に2つの意味を持たせるというレトリックである。すなわち、表面上は1つの意味でありながら、内容上は2つの意味を含ませている技巧である。このチャイナドレス現象がその仕組みを巧みに応用した例である。

前節では、比喩の使用した大学入試のスローガンを考察した。次に、大学入試を背景にした興味深い掛けことば現象を見てみよう。前文で分析したエンパシーを比喩表現の効果的な利用で表現していることについて以下の例で考察する。いずれも発音の関連性と意味の類似性から生まれた掛けことばが支える現象であり、新聞やニュースに出るほど注目も集めている。

(1)「旗袍」と「旗开得胜」

チャイナドレスは中国語では「旗袍」と言う。この「旗」の字と中国の成語「旗开得胜（戦いがうまくいき勝利する）」の「旗」の字を掛けているのである。また、「旗袍」の横は開いているため、「旗开得胜」の「开」に掛け、発音の類似性と意味の関連性で裏付けられた共感度の高い掛けことばである。

(2)「马褂」と「马到成功」

女性はチャイナドレス、男性の多くは「马褂」を着て試験会場まで応援に行く。これは、「马褂」を着ると縁起がいいと言われているためである。なぜなら、「马褂」の「马」と言う字と中国の四字熟語「马到成功（戦いが始まってすぐ勝利がつかめる）」の「马」の字を掛けているからである。

(3)「吻过」と「稳过」

試験問題を手に取ると、縁起のいい行為としては試験ペーパーにキスすることである。受験番号などを書く前、まず、試験ペーパーにキスする受験生がいる。なぜなら、試験ペーパーをキスした（吻过）ことで、試験を簡単に通過する（稳过）ことができるという「吻→稳」によって生成された掛けことばが背後にあるからである。

(4)「紫腚」と「指定」

縁起を追求するための行為は、受験生の着る服にも及ぶ。紫色のパンツを履くことも、試験がうまくいく「手段」の一つであるとされている。「腚」は中国語の俗語で、「お尻」を意味する。紫色のパンツを履くと紫色のお尻になり、すなわち「紫腚」になる。中国語の「指定过」と掛けて、「必ずパスする」という意味を表している。

(5)「高举向日葵」と「一举夺魁」

試験会場外で、保護者らがひまわりの花を高く挙げながら待っている風景も注目を集めている。ひまわりを高く挙げる「高举向日葵」の「举」と「葵」を、「一発で一番上位の座を取る」ことを意味する四字熟語の「一举夺魁」に掛けている。

(6)「红、绿、黄」と「开门红」「一路绿灯」「走向辉煌」

受験生が試験で着る服の色も、縁起のいい掛けことばによって決めることがある。比較的に人気があるのは、「红、绿、黄」がある。具体的には、試験の初日は「红」（赤）色で「开门红（順調でいい滑り出し）」と掛け、翌日は「绿」（緑）色で「一路绿灯（道全体が青信号）」と掛けている。そして、試験の最後の日は「走向辉煌（煌びやかな未来に向かって歩んでいく）」の「黄」（黄色）と掛けている。

(7)試験日の縁起のいい料理

日本では、「受験に勝つ」にかけてカツを食べる文化があるように、中国でも試験でいい点数が取れるように、縁起のいい料理が人気である。たとえば、地域によっては「粽子（粽）」食べて試験に臨む文化がある。漢字の「粽」の発音は、高い点数で試験に合格する「高中」の「中」が近音字であるその理由である。その他、麺を食べる際、一本一本スムーズに進むため、麺を食べると試験が順調に行くという言い伝えもある。

(8)Nike が人気

This work is licensed by the author(s) under CC BY 4.0 (https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/).

ナイキのロゴの形は、チェックマークからである。試験ペーパーを判定する際、正解を表すのは、チェックマークである。ナイキの服を着ることで「答えが正解であるように」ということを祈り、よい結果を期待する。

（9）WeChat（ウィーチャット）の「红包」の金額について

新年などで何かを祝う際、赤色の封筒にお金を入れ、家族の中の年上の人が、若者や子どもに渡すものが昔の「红包」である。現在ではデジタル化が進むことにより、現金ではなく、ウィーチャットで「红包」を送ることが多い。大学入試の受験生を励ますために親や親戚が「紅包」を送ることもある。しかし、新年に渡す 888 元のような金額ではなく、試験の際に渡すのは、211 元、または 985 元が多い。なぜなら、「211 工程重点大学」と「985 工程重点大学」は、中国で名門大学とされ、受験生の憧れである。よって、211 と 985 の数字も縁起の良い数字とされている。

以上で挙げた例は、いずれも比喩を巧みに利用したものであり、親しみやすさと、そこはかとないユーモアを醸し出している。言葉の意味や発音の類似性による「掛けことば行為」以外に、（7）、（8）の例のような、形による「掛けことば」も多く存在する。こういったような「掛けことば行為」は、他にも数え切れないほど存在する。一見、意味の分かりにくい行為や現象であるが、その背後にある掛けことばを分析することで、理解しやすくなり、強い印象が残る。エンパシーの喚起がより娯楽性に溢れるものになり、共感度も高まる。こうした掛けことば表現によって、試験に受かることに対する期待感が無意識に表現されている。周りの人からも親しまれやすく、エンパシーを表す効果的な手段と一つであるといえる。

6 終わりに

本稿では、まず、大学入試のスローガンの具体例をそれぞれ分析しながら紹介した。次に、このようなスローガンがどのようなプロセスで生成されているかを明らかにした。さらに、その背後にどのような認知的動機づけが働いているかを詳細に考察した。その結果、共感を喚起する比喩および掛けことばの豊かな使用が明らかになった。

今後の課題としては、今回紹介したデータは質的および量的な側面でも、網羅することはなかったため、その点を補う必要がある。また、今回見つけることができなかった種類の語形成の手段などをさらに探索し、考察を深めていこうと考えている。

参考文献

1.楠見孝『比喩理解の構造』 誠信書房 1990

2.瀬戸賢一 『よくわかる比喩――言葉の根っこをもっと知ろう』研究社 2005

3.高橋英光『言葉のしくみ 認知言語学のはなし』 北海道大学出版社 2010

4.橋本学 「命名の認知言語学的分析に関する試論―地域の名称をケース・スタディとして―」『欧米言語文化論集』 pp.191 - 207 , 2012-03-07 , 岩手大学人文社会科学部欧米言語文化コース 2012

5.ウィキペディアミラーリング（オンライン）(引用日: 2022 年 1 月 1 日.) https://ja.wikipedia.org/wiki/ミラーリング.

This work is licensed by the author(s) under CC BY 4.0
(https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/).